

東日本ユニオン営業協議会

平成28年10月

発行責任者

竹田 浩幸

本部第2回定期委員会開催 将来の駅職場を守るために

本部第2回定期委員会

営業協議会
竹田議長

10月13日、本部営業協議会は第2回定期委員会を開催し、駅業務委託、エルダー、駅遠隔操作システム問題点について議論を行った。

本部竹田議長は、これまで1年、各地本からの問題点の報告を頂き共有を図ってきた。特に、エルダー問題については業種に関わらず最大の課題となっている。すでに制度疲労を起こしている。営業協議会としても本部と連携を取りながら改善に努めたい。駅遠隔システム問題については、第4回常任委員会で集中議論を行い実態把握を行ったが、交渉の素材となるまでの事象については報告されなかったが、その後、一人勤務時間帯にケガをし、手当までに時間を要した事象が発生した。今後も継続し状況把握に努め、防犯、お客様、社員の安全について取り組んでいく。営業も高齢化となった今、駅職場を次代に引き継ぐ為、環境改善に奮闘して欲しいと挨拶した。

本部 渡辺委員長は、駅職場は中堅社員がおらず将来の姿が不安な中、どうしていくのかということが営業の課題としてある。ほとんどの収益を稼ぐ営業社員としての自信と確信を持ち、ユニオン視点で窓口を守るという気持ちでどうしていくのかとの議論を行い、不平不満を要求に変えることを基本として改善の先頭に立ち取り組んでほしいと挨拶した。

ユニオン本部
渡辺委員長

「エルダー問題点」

- 一部のエルダー職場でJRよりも年休数が20日少ない。手当も少なくなる。(秋田)
- 現職出向者の年齢が下がってきている。20歳代の社員にも声がかかっている。(水戸)
- エルダーアンケートに様々な職種が載っているが、示されるのは駅だけ。一般社員と管理者の職種に格差を感じる(高崎)
- エルダー職場は、辞める方が多く、慢性的に人手不足となっている。(高崎)
- エルダー希望調査で地元を希望したが、示されるのは遠隔地。(長野)
- 乗降数の多い駅職場は、エルダー職場としてどうなのか。(共通)

「各地本報告」

- 山田線は、昨年と今年9月の台風10号で大打撃を受け不通となっているが、来年11月の全線開通を目指している。(盛岡)
- 一部の駅で、一人勤務時の携帯用異常通報装置が設置されていない。(大宮・高崎)
- 一人勤務の駅、乗務員の車内トラブル、駅でのタクシー代行等一人では対応しきれない箇所、駅、乗務員、旅客指令3者が議論を行い、お互い穴を埋める取組みを行っている(新潟)
- 今年、新入社員加入ガイダンスを行った。加入に向け一歩前進した。(長野)
- 早朝に車いす対応に苦慮している。営業開始前から待っていることもある。(八王子)
- 支線の駅にAEDの無い箇所がある。拡大が必要。(横浜)
- 10月駅業務委託拡大提案が予定されたが、拡大計画が延期となった。職場に不安だけが残った。会社へ計画が無くなったことを伝えるよう要請。(仙台)
- 第4種踏切で事故が発生した。JRでの運転再開判断かと思ったが、第4種踏切は国土交通省での判断であることが分かった。(千葉)

次回 第1回常任委員会 1月26日(木)13時30分 本部にて開催